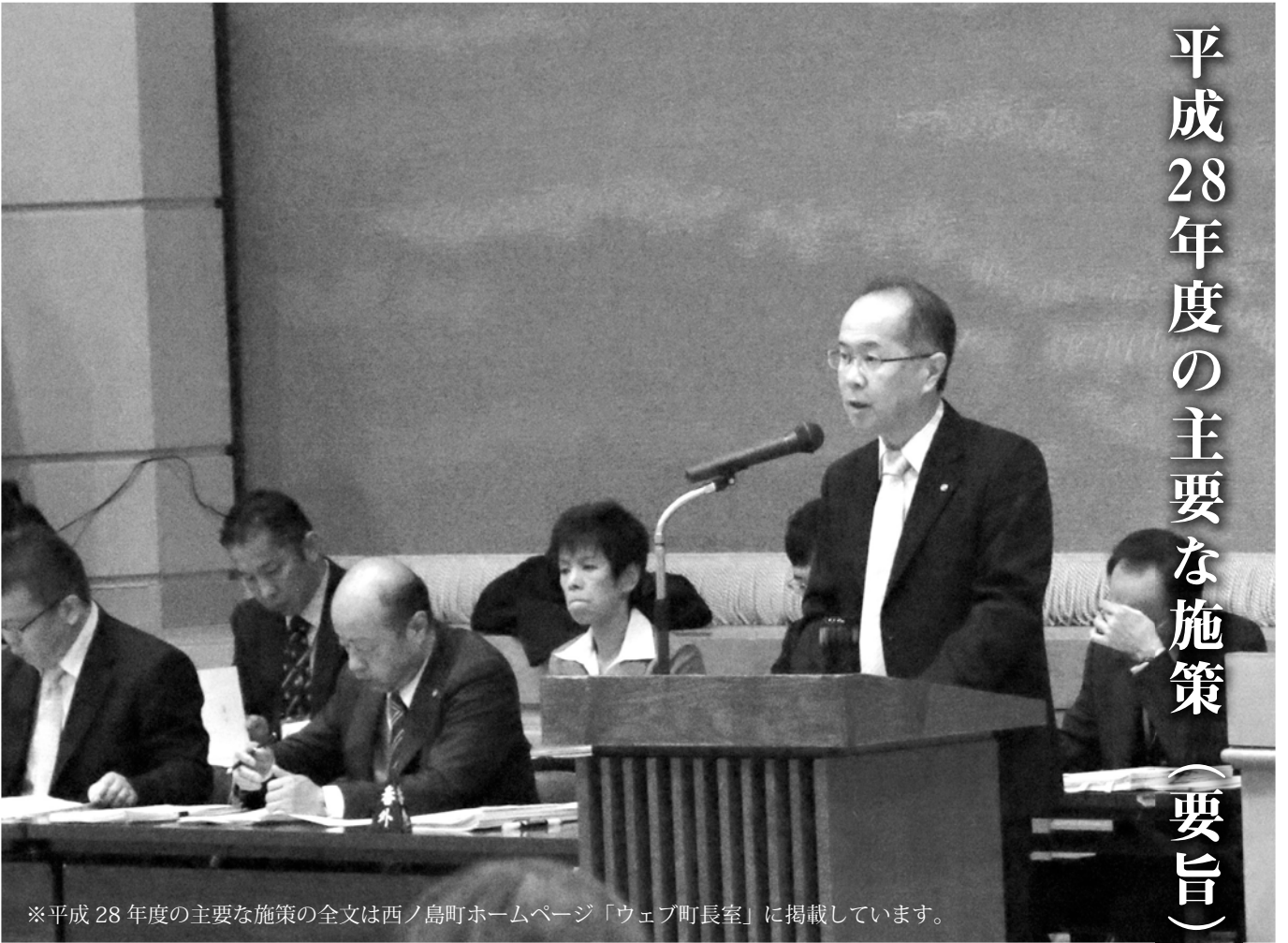


平成28年度の主要な施策 (要旨)



※平成28年度の主要な施策の全文は西ノ島町ホームページ「ウェブ町長室」に掲載しています。

地方創生

昨年実施された国勢調査での本町人口は、3000人を維持しているものの、引き続き減少傾向にあり、進学・就職を理由とした若者世代の流失や未婚率の上昇が続いております。

その一方で、音楽や祭り、スポーツなど、島の豊かな自然を活かした様々なイベントは、増加の兆しをみせており、新たな出会いや人との繋がりを構築するきっかけとなっております。

今後も、こうした取り組みや積極的な情報発信に努め、インバウンドを含む交流人口の拡大を図ることで、移住・定住の促進や産業の活性化、雇用規模の拡大に繋げてまいります。

離島に住む私たちにとって、あらゆる分野の経済活動の弊害となっているのが、海路に係る高い交通コストであります。

この問題にはこれまで、生活航路としての存続や、住民負担の軽減などを国に対して要望を続けており、戦略の中でも運賃低廉化に取り組むこととしております。

こうした中、本年4月より本町を含む隠岐島内の3町村が、航路運賃の助成を行うことにいたしました。

今後は、今国会に上程が見込まれて

いる特定国境離島に関する法案の内容や予算化にも注視しながら、持続可能な範囲で実施してまいります。

また、戦略の中の重要施策の一つに結婚推進を掲げております。

本町の15～19歳の男女平均未婚率は、1995年以降急激に上昇し、50%以上の高い比率が続くなど、少子化の大きな要因と考えております。

こうしたことから、結婚推進に係る担当部署を設け、行政による主体的な結婚支援の取り組み強化を図ってまいります。戦略で目指す姿「人の集う島へ」暮らしを彩るまち・ひと・しごととの循環」の実現に向け、具体的施策の着実な実行に努めてまいります。

産業振興

【水産業】

昨年の水産関係の状況をみますと、まき網漁業においては概ね好漁で、平年並みから平年以上の水揚げとなっております。一本釣りでもヨコワ漁が数年ぶりの豊漁となるなど、水産業にとりましては、良い1年となったところであります。

こうした中、まき網漁業では各船団とも運搬船の老朽化が進んでいることから、船の更新が喫緊の課題となっております。

これまでも、島根県やJF、漁業者と協議を重ねておりますが、引き続き建造に係る支援の方策等に、取り組んでまいります。

漁業就業者の確保対策では、引き続きまき網漁業の乗組員確保に支援を行い、一本釣りや刺し網、採介藻漁業などの新規就業者に対しては、給付金や漁船、漁具等の初期投資に対する支援を行ってまいります。

また、新規加工場の整備により、加工商品の量産体制の構築や未利用資源を活用した海藻類加工施設の整備などを進め、新たな雇用創出や漁業者の所得向上を目指し取り組んでまいります。

【農林業】

畜産関係では、近年、全国的な素牛の不足に加え、隠岐産子牛の品質向上などから、購買者が増加し、高価格での取引が続いております。

一方で、畜産農家の高齢化や減少が、今後の大きな課題であり、後継者の確保対策が畜産振興を図るうえで、最も重要と考えております。昨年には1名の新規就農者が誕生し、今年についても既に1名の新規就農が見込まれているなど、大変喜ばしい状況であります。

今年度は、学生のインターンシップの受け入れや大学等との連携にも力を

入れ、新たな担い手の確保に向けて、精力的に取り組んでまいります。

また、農家の負担軽減を図るため、引き続き増頭に対する支援を行うほか、牛舎等の軽微な修繕や作業用機械の導入に対する助成を拡充し、町有牛貸付に係る要件の見直しも行ってまいります。

輸送及び取引の効率化を図るため、長年の課題であった、家畜市場の整備に今年度から着手いたします。

整備にあたっては、施設の有効的な活用と新たな雇用創出に繋がるよう複合的な拠点施設を目指し、JA及び関係機関と連携しながら取り組んでまいります。

林業関係につきましては、引き続き島根県の「ふるさとの森再生事業」と隠岐島前森林復興公社の分収林事業を行ってまいります。

今年度からは、広がりを見せている竹林地も分収林事業の対象箇所に入れながら、事業を進めてまいります。

【観光】

昨年は、隠岐世界ジオパーク効果と大型観光ツアーによって、入込客数は5年ぶりに大きく増加し、大変賑わいを見せた年となりました。

今後ともこうした状況を期待し、利便性の向上に繋がるクレジットカード対

応事業所への支援や、更なる増加が予想される外国人観光客のための英語表記や音声ガイド作成、WiFi環境の整備などにも取り組んでまいります。

また、ジオパークについては、ユネスコの正式事業化によって、活動の1層の推進と世界的な認知度の向上が期待されております。

本町では、別府港第2ターミナル2階を拠点施設と位置づけ、今後、整備を進めるとともに、国内外への情報発信に力を入れ、テレビや雑誌の取材を働きかけるほか、修学旅行や合宿誘致などに取り組んでまいります。

毎年、恒例となったクルーズ客船の寄港については、今年度「飛鳥II」など4隻の寄港が決定しております。

乗船客の方々には、大変好評を得ていることから、更なる受け入れ体制の充実を図ってまいります。

また、昨年より取り組んでいる、外国籍クルーズ客船の寄港に向けても、関係機関と連携しながら実現を目指してまいります。

【交流・イベント】

第4回目となる「島RUN 2016」の開催が、10月23日に決定いたしました。

年々参加選手も増えてきており、定着しつつあるイベントですので、これまでの反省を活かしながら、より良い大会にし、参加者の方々に喜んでいただけるよう取り組んでまいります。

今年度の2学期から供用開始となる、新小中学校の竣工記念イベントを10月に予定しております。詳細については、今後、詰めてまいります。アンケータ結果に沿った音楽、演劇等のイベントを計画することとしております。

町民の皆様にも多数お出かけたいただき、新校舎の竣工を祝っていただきますようお願い申し上げます。

地域間交流では、今年度も江府町との経済交流や堺市で開催される交流イベントに参加を予定しております。

両地域との交流を深めるとともに、新たな交流の拡大と本町のPRに努めてまいります。

【定住対策】

総合戦略の中の大きな柱の一つに、移住・定住に関する基本目標が掲げられており、人口減少抑止には欠かすことのできない重要な施策となります。

目標の実現に向け、積極的な情報発信を行うことで、より多くの交流機会を創出し、相談・支援を含めた受け入